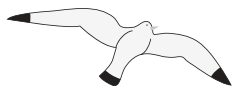


② こども

4	1 ひとり
---	----------

5	2
---	---



① かもめ

6	1 いちわ
---	----------

8	2
---	---

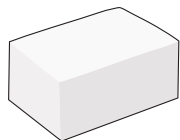


【れい】

1 いっこ

3 さんこ

《ふりかえり もんだい7》
 上の絵の^{うえ}ただしいかぞえかたをかんがえます。
 □の中の^{なか}すうじにあったかぞえかたで書^かこう。



⑤ とうふ

5	1 いっちよう
---	------------

10	2
----	---



④ きやべつ

4	1 ひとたま
---	-----------

10	2
----	---



③ くるま

6	1 いちだい
---	-----------

9	3
---	---

文の中の□にあうことばを、あとの□からえら
んで書こう。おなじことばは、二どつかえません。
つかわないことばもあります。

① 外は

してきもちがいい。

② カメは

とあるく。

③

とした、はごたえがする。

④

とそうぞうしい。

さくさく るるるん ばたばた
だらだら のそのそ ぽかぽか

とちゅうまで文が書いてあります。つづきの文を
かんがえて書こう。

① テストでまんてんをとった。そうしたら、

② あしたの天気は、はれるらしい。だから、

③ このへやは、ぼくがそうじをするね。だから、



②
いえ

7	1 い っ け ん
---	-----------------------

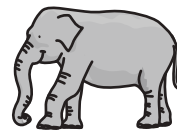
9	5
---	---



①
はっぱ

8	1 い ち ま い
---	-----------------------

9	2
---	---



【れい】

1 い っ と う

3 さ ん と う

上の絵のただしいかぞえかたをかんがえます。
□の中のすうじにあったかぞえかたで書こう。



⑤
いす

7	1 い っ き や く
---	----------------------------

10	3
----	---



④
いか

8	1 い っ ぱ い
---	-----------------------

10	4
----	---



③
はし

7	1 い ち ぜ ん
---	-----------------------

10	2
----	---

文ぶんの中なかの□にあうことばを、あとの□からえら
んで書かこう。おなじことばは、二にどつかえません。
つかわないことばもあります。

① ともだちに

わらわれた。

② タマはいつも

している。

③ えんそく。

朝あさから

する。

④ かぜが

とふいている。

うきうき
そよそよ

にっこり
くすくす

ごろごろ
わんわん

とちゅうまで文ぶんが書かいてあります。つづきの文ぶんを
かんがえて書かこう。

① タロが大きな声こえでほえている。きっと、

② えんぴつをわすれちゃった。そうだ、

③ いま、外そとは雨あめがふっている。でも、

つぎの 文^{ぶん}しょうをよんでといに答^{こた}えよう。

ふしぎないきものパイパイの家^{いえ}は、大きなもみの木^きにありました。とびらに、ちよつとまがった文字^{もじ}で「パイパイ」と書^かいてあるからすぐにわかります。パイパイの家^{いえ}のうらには、青^{あお}くすんだ、きれいないずみがわき出^でていました。パイパイは、いつもそのいずみでゆつくりと口^{くち}をすすぎ、ひげの先^{はな}までいいねいにあらひ、がまのほでしっぱをとかします。そんなときには、きまってはなうたをうたいます。けれど、そのはなうたがきこえるのは、いつも昼^{ひる}ごろでした。パイパイは、とてもねぼすけなのです。

(1) パイパイはどんないきものだとお話^{はなし}の中で言^いわれていますか。□の中^{なか}に入^{はい}ることばを書^かこう。

ないきもの

(2) ―せん①「パイパイの家^{いえ}のうら」とありますが、いったい何^{なに}があるのですか。□の中^{なか}に入^{はい}ることばを書^かこう。

青^{あお}くすんだ、

がわき出^でている。

(3) もういちど、―せん①「パイパイの家^{いえ}のうら」とありますが、パイパイはこ^こで何^{なに}をするのですか。三^{みつ}つ書^かこう。

ゆつくりと

つぎの文しようによんでいに答えよう。

① 小とりたちは、夜あけがうれしいのです。夜は目が見えない小とりたちは、くらい中で、じっと小さくなっています。けれど夜があげれば、とお山のずっとおこうまでも、青い空にうかぶくものあたりまでも、とんで行くこともできるのです。小とりたちは、まったくじゆうになれるのです。だから、② 小とりたちは朝のうたを力いっばいうたうのです。

(一) しっているとりの名まえを六つ書こう。

(2) —せん①「小とりたちは、夜あけがうれしい」とありますが、どうしてうれしいのですか。二つ書こう。

・夜があげれば、

--

までも、とんで行くことができる。

--

までも、とんで行くことができる。

(3) —せん②「小とりたちは朝のうた」とありますが、小とりがうたっているうたをそうぞうして、にんげんのことばで書こう。

--

つぎの 文^{ぶん}しようによんでといに答^{こた}えよう。

えきちようさんは、ふと小^{ちい}さいころにあそんだゆめぶくろをおもい出^だしました。「ゆめ」と書^かいたふくろに、ねがいごとを大^{おお}ごえでふきこみ、口^{くち}をとじて火^ひにくべると、ゆめがかなえられるというのです。「子^こどもたちにも、きつとゆめがあるにちがいない。」えきちようさんは、さつそくおくさんにゆめぶくろをたくさん作^{つく}ってもらいました。そして、子^こどもたちにこえをかけました。「みんな、このふくろにゆめを入^いれて、もっておいで。それがキップだよ。」大^{おお}きいゆめ、かわいいゆめ、きれいなゆめ。た^たくさんのゆめぶくろがあつまりました。「よしよし。これをせきたんがわりに、きゆうべえに食^たべさせよう。わしも、一^{ひと}つ、うんとでかいやつを作るぞ。」き^きゆうべえのおなかに、ゆめぶくろを一^{ひと}つ入^いれると、どうでしょう。えんとつから、むらさき色^{いろ}のけむりがモクモク。もう一^{ひと}つ入^いれると、じょうきがシューと出^でました。「わっ、けむりが出^でた。きゆうべえ走^{はし}れ！」子^こどもたちは大^{おお}よろこび。きゆうべえのからだに、力^{ちから}がわいてきました。

「もう、じつとしてはおれん。子^こどもたちのために走^{はし}らなくちゃ。」きゆうべえは、うんとけむりをはいて、じょうきをふきました。ワツシュ、ワツシュ。すると、きゆうべえは、ゆっくり、空^{そら}にのぼりはじめたではありませんか。

(一) —せん①「ゆめぶくろ」とありますが、これは何^{なに}ですか。□の中^{なか}に入^{はい}入ることばを書^かこう。

と書^かいたふくろに、

ふきこみ

口^{くち}をとじて

ゆめがかなえられる

(2) ―せん②「たくさんのゆめぶくろがあつまりました」とありますが、どんなゆめぶくろが、あつまったのですか。三つ書こう。

ゆめ

ゆめ

ゆめ

(3) ―せん③「きゅうべえ」とありますが、きゅうべえとは、何ですか。

(4) ―せん③「きゅうべえのおなか」とありますが、きゅうべえのおなかにゆめぶくろを入れると、どんなことがおこりましたか。

えんとつから

が

。もう一つ入れると

がシューと出ました。

(5) お話のさいごに、きゅうべえは、どこへむかって走りはじめましたか。

ゆっくり